

健康 進取 敬愛

北中だより

文責：三田 康弘

生徒の皆さんへ

お客様に「感動」と共に『太田一の学校』を伝えた体育祭

— 体育祭スローガン「吠えろ雷鳴の如く 叫べ友との雄叫び」 —

昨日の体育祭は、最初の開会式とラジオ体操を見ただけで、素晴らしい体育祭になることが十分に予想できました。そして、結果はそのとおりになりました。

徒競走もリレーも、本当に苦しかったと思いますが、クラスのために、誰もが全力で走り切りました。その姿には誰もが感動を覚えました。額に汗を流しながら、全員で力を合わせて跳んだチームジャンプ。どのクラスも一回でも回数を増やそうと、声を合わせ必死に跳んでいました。結果として思うような回数に達しなかったクラスもあったかもしれませんが、でも、そのチームワークと最後の最後まで頑張った姿には、会場から大きな拍手が起こりました。そして、学年種目、10人11脚競走、応援合戦。どのクラスからも、真剣さと楽しさが十分に伝わってきました。

「感動の分岐点を越えた」太田一の学校

皆さんの競技や演技には、「感動の分岐点を越えた」ものがたくさんありました。そして挨拶を初めとしたマナーの良さや応援の態度でも、素晴らしいものを見せてくれました。お客様に北中が「太田一の学校」を目指している姿を実際に見ていただき、納得してもらえた体育祭だったと思います。「北中の生徒達の頑張る姿を見て感動しましたよ。」「雨の中でも必死にやっている姿に励まされ、自分も頑張ろうと思いました。」という感想を聞きました。たくさんのお客様が満足感と幸せな気持ちを持ち帰られたのだと思います。生徒の皆さんは間違えなくお客様の期待に応えてくれました。「期待に応える」ということはこのように相手を幸せな気持ちにします。

皆さんも充実感と満足感でいっぱいだと思います。本当によく頑張りました。お疲れさまでした。

さあ、今日からは次の「感動の分岐点を越えろ」に向けてスタートです。次は合唱コンクールです。合唱コンクールでも体育祭と同じように「感動の分岐点を越えた」姿をお客さんにぜひ見せてください。そのためには、今まで以上に強いクラスの絆と団結、そして練習が必要です。体育祭でのまとまりをさらに堅固にして、完成度を上げてください。期待しています。

みんなと一緒に時間も楽しみ、『ひとりの時間』も楽しめる人に

先日、仕事帰りにラジオを聞いていたら、高校生たちが家に帰ってからの過ごし方について放送していました。それによると、家に帰ってからのほとんどの時間は、メールのやりとりとのことでした。その中で高校生達が番組制作者からいくつかの質問を受けていました。

番組制作者) 「なぜ、そんなにメールばかりやっているの?」

高校生達) 「メールで連絡を取り合っていないと、自分一人だけ、取り残されているような気になってしまうから。」

番組制作者) 「ひとりで過ごす時間って、ないの?」

高校生達) 「そんなヤバイ時間なんてないよ。」

私はこのやりとりを聞いて思いました。確かにどこかに自分が所属していること、自分がその仲間の一員であるという意識を持つことは必要なことです。またそれによって、ある種の安心感が得られるのも事実であり、大事なことです。でも、そのために、勉強や読書をする以外の自分が一人になる時間を否定してもよいのでしょうか。私は、『ひとりの時間』というのには、自分自身を見つめるのにとっても大切な時間だと思っていますから、一日のどこかで必ず作るようにしています。『ひとりの時間』には、次のような利点があると思っています。

- ①『ひとりの時間』は、自分の感情に素直になれる時間です。周りの目を気にしない本当の自分の気持ちに向き合うことができます。
- ②『ひとりの時間』は、その日に起きた出来事を客観的に見直すことができる時間です。あのときの相手の気持ちも落ち着いてじっくりと考えることができます。
- ③『ひとりの時間』は、ひとりでいるときにしか味わえない、心の豊かさを実感できる時間です。週末などの時間的に余裕があるときには、自然にふれることをお勧めします。できれば自分の視界をさえぎるものがない状況、例えば、静かな公園の中で大空を見上げるような時間がとれると、心がとてもゆったりとして開放感を味わえます。

※以上のように、私は『ひとりの時間』をもつことによって、無理なくリフレッシュと気分転換を図っています。個人差がありますから、これ以外にも『ひとりの時間』を持つことで初めて気が付くこと、初めて見えてくるものはたくさんあると思います。ですから『ひとりの時間』は、人間が成長するためにとっても大切な時間だと言えます。

学校でも、家に帰っても、親しい友人と一緒にしゃべりして笑ったり、一緒に遊んだりする時間はとても楽しいし、人生の大切な時間だと思っています。でも、その時間だけにしか、価値を見出せないというのは、人生の楽しみを半分しか知らないことになってしまうと思います。ぜひ、人生の残り半分の楽しみである『ひとりの時間』を少しずつでも味わい、楽しんでほしいと思います。